



愛や幸せ、価値のあるものは 全て他の人の中にある

昨年、兄のスティーブさんとトレーニングパートナーを亡くしたサンネ選手。深い悲しみのなか「柔道はベッドから起き上がる理由をくれた」といいます。コーチの熱心な指導に支えられ、徐々にオリンピックへの夢を取り戻していきました。大会当日、決勝進出をかけた対戦で惜しくも敗北。そんな時、心のよりどころとなったのは今まで支えてくれた人々の存在でした。「この試合は私のためでなく、兄弟のため、家族のために戦う」。この信念のもと、自身を奮い立たせ、見事銅メダルを獲得しました。「愛や幸せ、価値のあるものは全て他の人の中にあるということを学んだ」というサンネ選手。この日、オランダは8つのメダルを獲得し、1日のメダル獲得数の新記録を1928年のアムステルダム大会ぶりに更新しました。



①オリンピックの舞台に立つサンネ選手。②銅メダルの獲得が決まった直後、競技場で深く礼をしました。

70 kg級銅メダル
サンネ・ヴァン・ダイケ選手 (26)

Stronger Together
兄に捧げる銅メダル



【画像】「国際柔道連盟ホームページ」から引用

TOKYO 2020、

2つのストーリー

華やかなオリンピックの舞台に立った選手たち。しかし、そこまでの道のりはとても険しいものでした。サンネ選手とテシー選手が東京 2020 大会に出場するまでのストーリーを紹介します。



柔道は自分との闘い
努力で勝ち取った出場

78 kg 超級
テシー・サフェルクルス選手 (29)



①練習中のテシー選手。本番までの最終調整に熱が入ります。②仲間とのやりとりに笑顔があふれるシーンも。

選手生命のピンチから奇跡の復活 努力がつかない希望の道

「代表選手として日本に来られたことに感謝しています」と語ったテシー選手。その背景には、東京 2020 大会への切符を手にするまでの大きな困難がありました。2020 年、数々の大会で優勝・入賞を収めてきたテシー選手は、五輪代表候補として注目を集めていました。しかし、グランドスラム大会に出場した際、右ひざを負傷。選手としての再起は不能だろうと言われるほどの大けがを負ってしまいます。その後は「本当に努力の連続だった」と振り返るほど辛い、数回におよぶ手術とリハビリの日々。その状況のなかでも希望を捨てずに挑み続け、ついにオリンピックの出場資格を手に入れました。選手生命のピンチから奇跡ともいえる復活を遂げたテシー選手。今後の活躍に、ぜひご注目ください。



【画像】「国際柔道連盟ホームページ」から引用